

## ポスター発表 28

## 「なら(Nara)」で子どもの「にほんご(Nihongo)」に携わる支援者のお茶会「Nカフェ」

新谷遥（奈良・子どもの日本語教育ネットワーク）

宮谷雪（奈良・子どもの日本語教育ネットワーク）

## 実践の場の特徴

これまで、奈良県内の支援者は横のつながりが希薄であり、それぞれが課題を抱えている現状があった。そこで、奈良県内の外国にルーツを持つ子どもたちの支援をする有志により、2016年3月に「奈良・子どもの日本語教育ネットワーク」が立ち上がった。現在、本団体は、奈良県内の教職員、支援教室や自主夜間中学の支援者、日本語指導員、大学教員を中心に、様々な立場から子どもたちを支援する者がメンバーとなっている。2016年3月の結成時にシンポジウムを行い、奈良県内外から約30名が集まり、課題の交流をした。学校現場との連携の難しさ、日本生まれの子どもへの支援や特別支援の可能性のある子どもへの支援をどう進めればよいのかといった課題が出た。

## 実践の目標

本団体では、上記の現状や課題を受け、支援者が互いに、また気軽に、課題を交流したり、情報交換したりできる場を設定することが重要であると考えた。そこで、支援者のお茶会「Nカフェ」を定期的で開催することにした。

## 具体的な実践の内容とその過程

2016年度は、第1回7月、第2回10月、第3回1月、第4回3月と開催時期を設定した。毎回関連のある分野からゲストを呼び、実践や経験について話してもらう時間を30分設け、そのあとで支援者の抱えている課題を交流する時間を1時間設けることにした。

## 結果と考察（目標の達成度）

第1回Nカフェでは、10名の子どもの支援者が集まった。ゲストは、自身が外国にルーツを持ち、現在は奈良で日本語指導員をしている本団体事務局員にお願いした。参加者の方々がお茶やお菓子を楽しみながら課題交流をされ、アンケートからも「非常によかった」という感想をいただいた。

また今後、参加いただいた支援者から出た意見をまとめ、発信できればと考えている。